平成 28 年度 松山市立子規記念博物館における購入資料の概要
（種田山頭火関連資料）

松山市では、平成 28 年 5 月に種田山頭火に関連する資料 23 点を購入し、松山市立子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料について調査・研究を進め、正岡子規・夏目漱石・柳原極堂の生誕 150 周年を迎える平成 29 年度において、一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

（１）種田山頭火句「母ようどんそなへてわたくしもいただきます」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 270×240 ㎜（本紙）。昭和 15 年 2 月筆。句は昭和 13 年の作で、自殺した母親を想って詠んだもの。

（２）種田山頭火句「ほろほろ酔うて木の葉ふる」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 273×240 ㎜（本紙）。句は昭和 3 年。酒好きとして知られた山頭火のユニークな作風が感じられる作品。

（３）種田山頭火句「霽れててふてふ二羽となり三羽となり」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 270×240 ㎜（本紙）。昭和 15 年 4 月筆。句は昭和 9 年。

（４）種田山頭火句「道がなくなり落葉しようとしてゐる」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 270×240 ㎜（本紙）。昭和 15 年 4 月 5 日筆。

（５）種田山頭火句「うれしいこともかなしいことも草しげる」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 270×240 ㎜（本紙）。句は昭和 9 年。

（６）種田山頭火句「へうへうとして水を味ふ」（色紙・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した色紙。寸法は 273×240 ㎜（本紙）。昭和 15 年 3 月筆。句は昭和 2～3 年。山頭火は水についての俳句をよく作っている。

（７）種田山頭火写真（紙焼・台紙貼り）

【概　要】

山頭火の写真紙焼を保存用の台紙に貼ったもの。寸法は 287×236 ㎜（本紙）、303×258 ㎜（全体）。笠を被った、山頭火晩年の代表的な写真である。

（８）種田山頭火句「べうべううちよせてわれをうつ」（短冊・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した短冊。寸法は 362×60 ㎜（本紙）。「室戸」と詞書が記されている。

（９）種田山頭火句「すべってころんで山がひっそり」（短冊・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した短冊。寸法は 360×60 ㎜（本紙）。

（10）種田山頭火句「見すぼらしい影とおもふに木の葉ふる」（短冊・まくり）

【概　要】

山頭火が自作句を記した短冊。寸法は 360×60 ㎜（本紙）。

（11）高橋一洵の村瀬千枝女あて書簡（葉書・まくり）

【概　要】

松山の山頭火の知人・高橋一洵（いちじゅん）が村瀬千代女にあてた書簡。山頭火がかつて住んでいた山口県の其中庵の光景を描き、俳句を記している。昭和 16 年 3 月 11 日消印。寸法は 140×90 ㎜（本紙）。

（12）種田山頭火の村瀬千枝女あて書簡（葉書・まくり）

【概　要】

山頭火が村瀬千枝女にあてた書簡。昭和 15 年 8 月 9 日。寸法は 140×90 ㎜（本紙）。同日揮毫した七夕の俳句（資料（15））を訂正したいこと等を記す。資料（15）が制作された経緯を示す貴重な資料である。

（13）種田山頭火の二神房子あて書簡（葉書・まくり）

【概　要】

山頭火が村瀬汀火骨（ていかこつ）（松山の俳人・山頭火の知人）の親族である二神房子にあてた書簡。昭和 15 年 1 月 3 日。寸法は 140×90 ㎜（本紙）。

（14）種田山頭火の二神房子あて書簡（葉書・まくり）

【概　要】
山頭火が二神房子にあてた書簡。昭和 15 年 8 月 21 日。寸法は 140×90 ㎜（本紙）。

（15）種田山頭火句　七夕の短冊（短冊・軸幅）

【概　要】
昭和 15 年 8 月 9 日、山頭火が村瀬汀火骨の宅で書いた七夕の短冊に、汀火骨が自らの句を加えて表装したもの。山頭火の句が 6 句、汀火骨の句が 1 句。鮮やかな色付短冊 7 枚を軸幅に散りばめた珍しい形態である。

（16）種田山頭火句「ふたゝびはふむまい土をふみしめて征く」（詩箋・軸幅）

【概　要】
山頭火が自作句を記した詩箋を軸装したもの。寸法は 237×150 ㎜（本紙）、1123×252 ㎜（全体）。

（17）種田山頭火句「まったく雲がない笠をぬぎ」（半折・軸幅）

【概　要】
山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1368×340 ㎜（本紙）、2038×423 ㎜（全体）。句は昭和 5 年 10 月、九州を旅しているときに詠んだもの。

（18）種田山頭火句「ほろほろ酔うて木の葉ふる」（半折・軸幅）

【概　要】
山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1324×310 ㎜（本紙）、2039×390 ㎜（全体）。昭和 15 年 10 月 9 日筆。山頭火はこの 2 日後に松山の一草庵で死去しているため、本資料は死の直前の作品として極めて重要。

（19）種田山頭火句「鉄鉢の中へも霰」（半折・軸幅）

【概　要】
山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1353×344 ㎜（本紙）、2098×435 ㎜（全体）。句は昭和 7 年。山頭火の代表句であり、一草庵に本資料をもとにした句碑が建立されている。一草庵に所縁の深い重要な資料。

（20）種田山頭火句「空へ若竹のなやみなし」（半折・軸幅）

【概　要】
山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1393×349 ㎜（本紙）、2053×430 ㎜（全体）。

句は昭和 10 年。

（21）種田山頭火句「へうへうとして水を味ふ」（半折・軸幅）

【概　要】

山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1340×309 ㎜（本紙）、2063×390 ㎜（全体）。昭和 15 年 10 月 9 日筆。資料（18）と同様、山頭火の死の直前の作品であり、極めて貴重である。

（22）種田山頭火句「草は咲くがままのてふてふ」（半折・軸幅）

【概　要】

山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 1346×291 ㎜（本紙）、2085×360 ㎜（全体）。句は『孤寒』所収。

（23）種田山頭火句「濁れる水のながれつつ澄む」（半折・軸幅）

【概　要】

山頭火が自作句を記した半折を軸装したもの。寸法は 938×275 ㎜（本紙）、2123×345 ㎜（全体）。松山滞在期に詠まれた句で、山頭火の代表句のひとつ。

■ 購入した日

平成 28 年 5 月 6 日（金）

■ 購入額

12,780,000 円　　※23 点一括

■ 購入先

個人（愛媛県在住）

■ 今後の一般公開について

今回の資料には、種田山頭火の直筆作品として貴重なものが多く含まれています。今後は、調査・研究や整理・保存作業等を進めた上で、正岡子規・夏目漱石・柳原極堂の生誕 150 周年を迎える平成 29 年度において、常設展特集コーナー等において一般公開を行い、その後も常設展や特別展、機関誌等で積極的に公開の機会を設け、永続的な活用を図る予定です。